オナガガモ雌の雄変例

黒 田 長 禮*

鴨にはニワトリなどと同じ様に主に飼養中のもので早が永年飼われている内に部分的に羽色が雄変して来る場合がある。ニワトリでは早が鶏冠が伸びたり、舌の如き時を作る鳴声を発するものがある。勿論産卵はしない。解剖すると卵巣は不判明か縮小して即ち早でなくなっていることが多い。これは生殖器の何等かによる変異であろう。そして距は出てこない。

鴨の場合も恐らく斯様であろうと思うが、外部の変化に気付くのみで未だその個体を解剖したことがない。是迄の例としては私 (1929, 1939) はオナガガモに1例、それは羽田鴨場で採集し飼養の早の舌変 (「鳥」6 (27)参照) と永く飼養したオシドリ早が何年目かに突然羽衣脱新のときに数羽の舌羽、殊に銀杏羽も顔を出すに至ったことを知る。この場合写真は撮ってあるが、この鳥は間もなく野犬の襲来で斃死したので仮剥製で残っている。時は1966年2月7日で、10年間飼養の鳥であった (飼養許可による鳥)。

今回笹川昭雄氏が1974年2月上旬上野不忍池で撮影されたオナガガモの雌斑雄型の写真は上記の例に入ると私は思う。よほどの老成雌が舌変したものと思う。これは前例より脇の斑が明瞭で且つ尾が長い。

一見似て見えるオナガガモ Kerguelen Pintail (*Anas acuta eatoni* (Sharpe)) ではないことは斑紋や前頸が白色無斑であって一致していないことの外、この Kerguelen の亜種は南インド洋の Kerguelen 島の留鳥であって人力により北へ持ち来たされた英仏の例の外は自ら北進の渡りはなし得ないと信ずる。但し近年矢張り南インド洋の St. Paul 及び Amsterdam Islands に移入されている。

要するに雉科や鴨科のような所謂獵鳥の早が極く稀れではあるが舌変する例は時々知られているのである。

オナガガモ雌の雄変個体 (上野動物園不忍池にて。1974年2月、笹川昭雄氏撮影)
A masculinized female pintail *Anas acuta acuta* (Shinobazu Pond, Ueno, Tokyo, Feb. 1974) (Photo Akio Sasagawa)

附記——以上を書いた後、神奈川県立博物館の中村一恵氏 (1976年2月23日受信) から同じ不忍池で1976年2月10日にオナガガモ1羽の異常羽を撮影し私に寄贈され多分早の舌変であろうとの手紙を受けた。これは前の笹川氏の1974年の写真に比し大に異っていて白味勝ちで一見同一鳥とは思われない。しかしオナガガモ早の舌変たることは確からしく思える。

* (107) 東京都港区赤坂2丁目17番地10号

参考文献 : Delacour, Jean 1956. *The Waterfowl of the World*. Vol. 2: 129~135, pl. XIV. London.

黒田長禮 1929. 此猟期間に獲たる珍稀の雁鴨類二三。「鳥」6 (27) : 121~122, fig. 30 (オナガガモ♀の♂変, 羽田採集, 1928).

黒田長禮 1939. 雁と鴨 pl. 67 の説明。

Scott, Peter 1957. *A Coloured Key to the Waterfowl of the World*. P. 50, Col. figs. London.

Examples of masculinized female pintails *Anas acuta*

Nagamichi Kuroda

A presumed old female pintail *Anas acuta* with masculinized plumage pattern is here reported with its photo taken by Mr. Akio Sasagawa at Shinobazu pond, Ueno Zoo, Tokyo, early February, 1974. It has rough flank markings and elongated central tail feathess.

Another example of different plumage pattern also found at the same pond, photographed a 10 February 1976, by Mr. Kazue Nakamura is added.

Kuroda (1929, '39) had reported another old record of the pintail and a female Mandarin duck *Aix galericulata* was masculinized when molted after long kept in author's aviary.

(107) Akasaka, 2-17-10, Minato-ku, Tokyo